

## アニメは日本語教育に使えるか -Co-Chu を使ったアニメの分析-

*Is anime useful in Japanese language education? An analysis using Co-Chu*

山本裕子 (愛知淑徳大学)、ラニガン・マシュー (Honeywell) 小森早江子 (中部大学)

近年、日本のアニメは世界的に人気があり、教室ではなくアニメのみで日本語を学ぶ学習者もいる。また、アニメを日本語教育に取り入れる試みも急速に広がっている (熊野・川嶋 2011 他)。

しかしアニメを日本語教育に活用するには、まずアニメの日本語の特徴を知る必要がある。そこで本研究では、テレビアニメ 5 作品、アニメ映画 4 本を「アニメコーパス」とし、書き言葉均衡コーパス BCCWJ (以下「書き言葉」と話し言葉のコーパスである名大コーパス (以下「話し言葉」と比較して、語彙および文法的特徴を分析した。書き言葉、話し言葉の分析は中納言を使用し、アニメコーパスはオリジナルの分析ツールである Co-Chu を使用した。

分析は全体的な特徴、語彙、文法の 3 つの観点から行った。結果を以下に示す。

1. 全体的な特徴：コーパスごとに品詞の割合をみたところ、話し言葉では主観的な表現に多いとされる形容詞、副詞、感動詞の割合が高いが、書き言葉ではその 3 分の 1 以下であった。またアニメは両者の中間的な割合であった。
2. 語彙面の特徴：書き言葉の動詞・形容詞・副詞の頻出上位 10 語をアニメと比較したところ、動詞は 9 語、副詞は 8 語、形容詞は 6 語が共通であった。上位 50 語ではどの品詞も 7 割弱が共通していた。高頻度語彙はかなり共通していると言える。
3. 文法面の特徴：初級で学ぶ文型からコア文型 (岩田・小西 2015) の出現頻度を 3 つのコーパスで比較したところ、上位 15 のうち 9 文型が共通していた。また、書き言葉で多く用いられる文型、話し言葉で多く用いられる文型のどちらもが、アニメコーパスには用いられていた。

このようにアニメコーパスは、書き言葉と話し言葉のどちらかに近いということではなく、どちらの特徴も有している。アニメの日本語は話し言葉ほどくだけていないため、日本語学習者にとっては文法項目を理解しやすい可能性がある。今後、より詳しく分析し、アニメの日本語の特徴を明確にしたい。

### 引用文献

- 熊野七絵・川嶋恵子 (2011). 「『アニメ・マンガの日本語』 Web サイト開発-趣味から日本語学習へ-」  
『国際交流基金日本語教育紀要』 7, 103-117, 国際交流基金.
- 岩田一成・小西円 (2015). 「出現頻度から見た文法シラバス」 庵功雄・山内博之編『データに基づく文法シラバス』 所収, 87-10. くろしお出版.